

(3) 調査結果

a) 貴重な鳥類の繁殖状況

N-4 地区における貴重な鳥類の生息及び繁殖の確認状況を表 6.3.3-10 に示した。確認地点は図 6.3.3-3～図 6.3.3-4 に示した。調査範囲は、着陸帯を含み、行動圏や沢などの地形の特性を考慮して定めた。

N-4 地区で5, 6月に繁殖を確認したのは、 (営巣、餌運搬)、
 (営巣)の2種であり、このほか繁殖の可能性がある確認は、
 (巣跡)、 (家族群)、 (ドラミング、巣跡)、 (造巣)、 (巣跡、幼鳥)、
 (家族群)の6種で得られた。

なお、は、春季に沢筋で幼鳥を含む2羽の個体を同時に確認したことから、近傍で繁殖した可能性が高いと考えられた (写真は未撮影)。

表 6.3.3-10 貴重な鳥類の生息及び繁殖状況 (N-4 地区：春季)

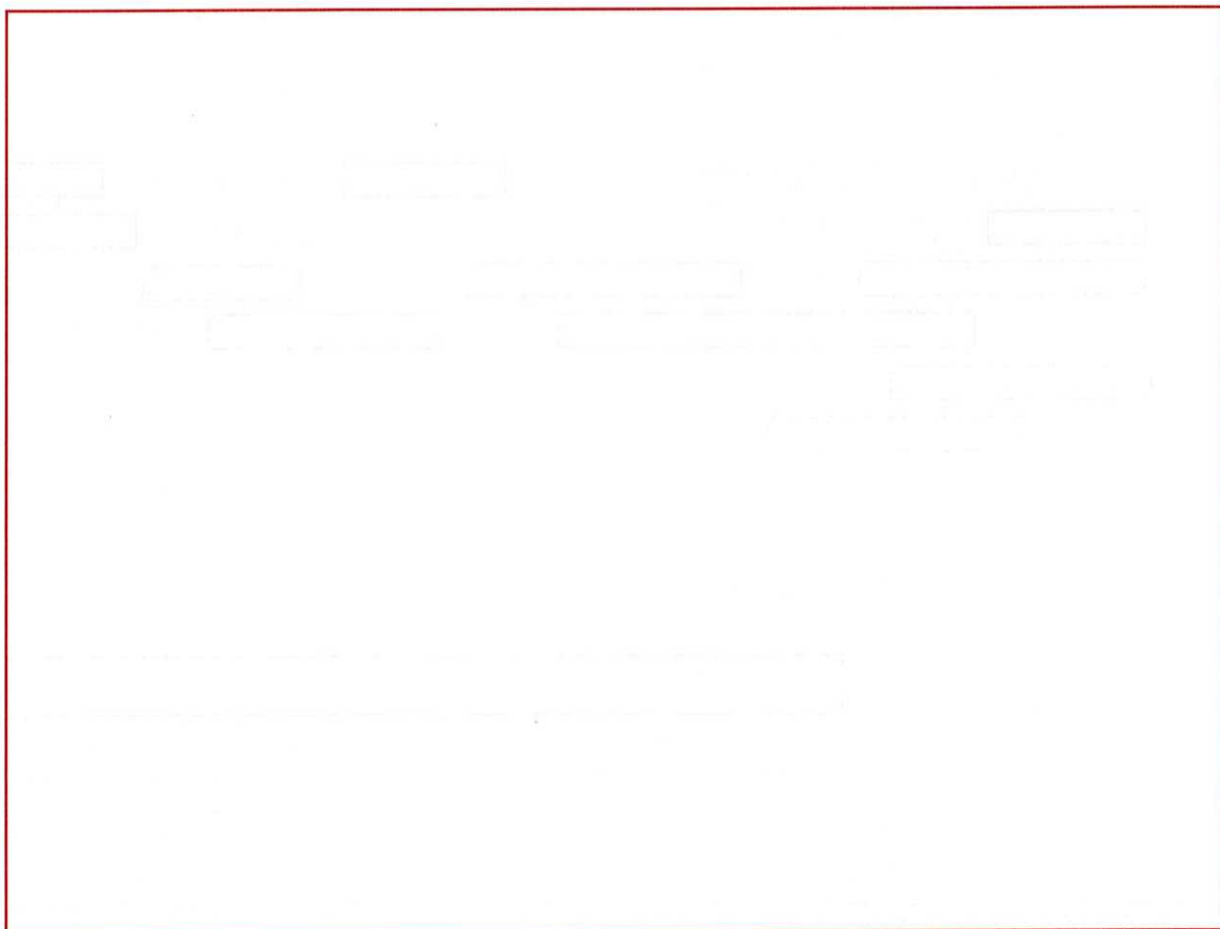
【5月】

ランク	現地調査に関する基準																
		N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2
a	繁殖を確認した。																○ 1
b	繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。					○ 1		○ 3		○ 4				○ 1	○ 3		○ 12
c	生息を確認したが、繁殖については、何ともいえない。	○ 1			○ 1	○ 1		○ 5	○ 3	○ 12	○ 9	○ 11	○ 2	○ 6	○ 2	○ 5	○ 3
d	姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない。																
e	生息は確認できなかったが、環境から推測して、繁殖期における生息が考えられる。																
f	繁殖期における生息を確認できず、繁殖については何ともいえない。																

【6月】

ランク	現地調査に関する基準																
		N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2
a	繁殖を確認した。									○ 1							
b	繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。									○ 1	○ 1					○ 1	
c	生息を確認したが、繁殖については、何ともいえない。	○ 1		○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 4	○ 5	○ 1	○ 2	○ 1			○ 1
d	姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない。																
e	生息は確認できなかったが、環境から推測して、繁殖期における生息が考えられる。																
f	繁殖期における生息を確認できず、繁殖については何ともいえない。																

注) ランク区分は、環境省第6回自然環境保全基礎調査「鳥類繁殖状況調査報告書(環境省編、平成16年)」の区分に準じる



写真：貴重な鳥類の繁殖状況（N-4 地区）

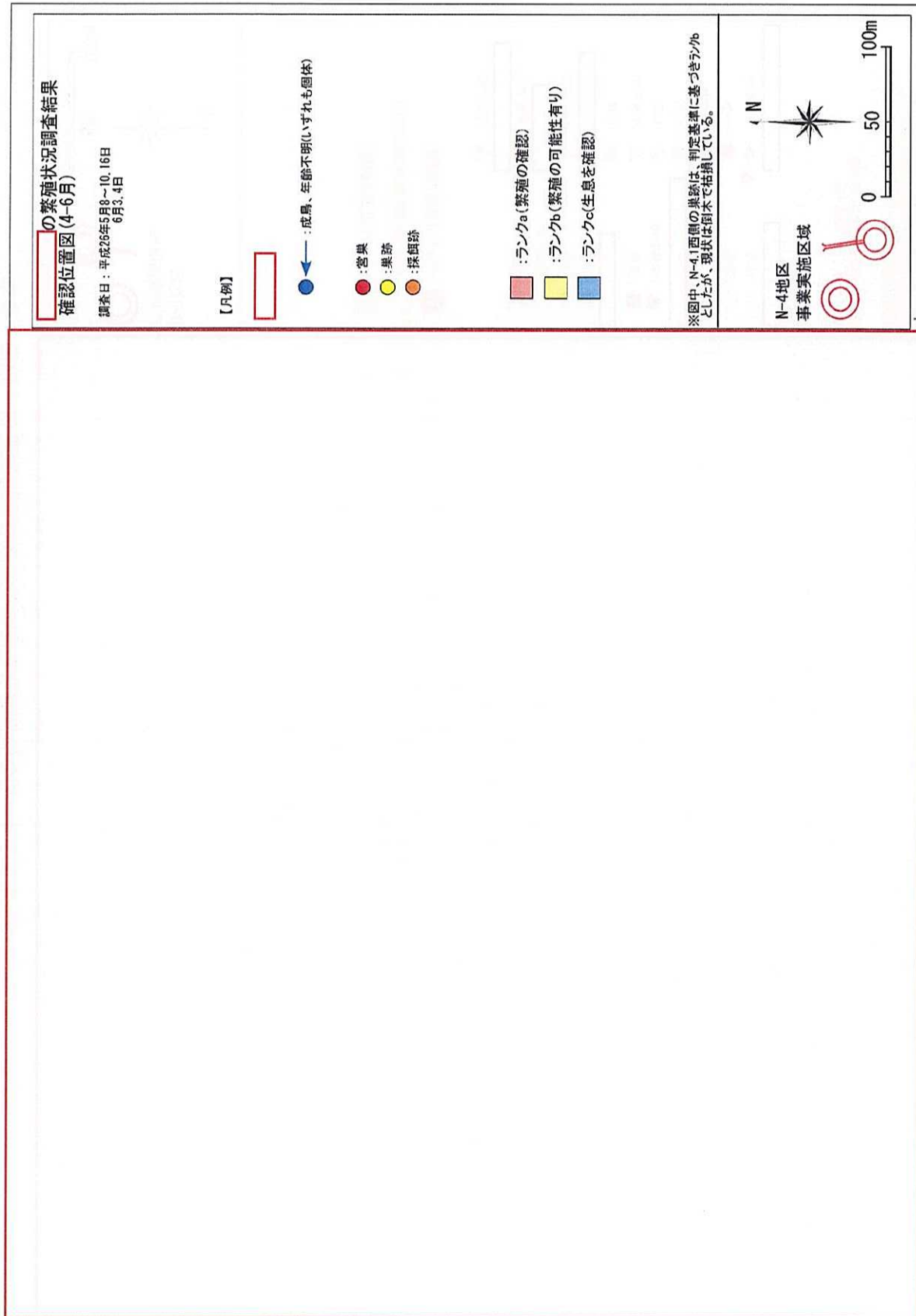


図 6. 3. 3-3 〇〇〇〇の確認及び繁殖位置(N-4 地区：春季)

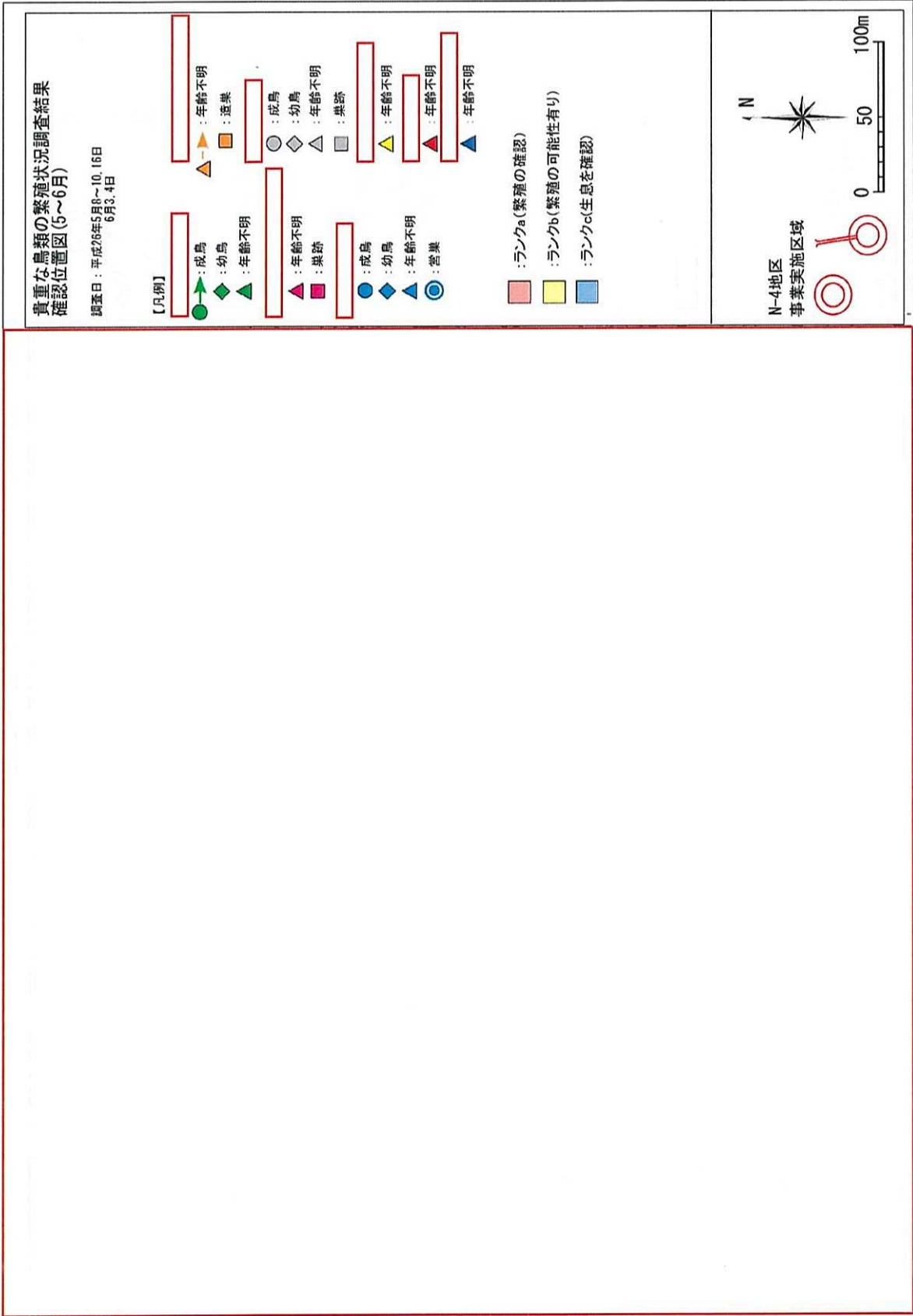


図 6.3.3-4 その他貴重な鳥類の確認及び繁殖位置(N-4地区：春季)

b) 貴重なカエル類の繁殖状況

N-4 地区における貴重なカエル類の生息及び繁殖の確認状況を表 6.3.3-11～表 6.3.3-12 に示した。確認地点は図 6.3.3-5～図 6.3.3-6 に示した。調査範囲は、着陸帯を含み、行動圏や沢などの地形の特性を考慮して定めた。

N-4 地区で春季に繁殖を確認した種は、、、
の 3 種であった。は、N-4.2
で幼生を確認した。は、N-4.1 の源流をはじめ複数の水系で卵塊や幼生を確認した。の繁殖は、N-4.1 から北西側の既存道路脇の池で多数の成体が鳴くのを確認し、状況から繁殖と判定した。

冬季に繁殖を確認した種は、の 1 種であり、
の繁殖場は、とにおいて確認した。冬季調査では、の幼生も確認したが、本種は春季から夏季にかけて産卵、幼生となる種であり、幼生となった後は河川を流下することで繁殖場との判定は困難なため、繁殖地の可能性がある確認場所と判定した。

表 6.3.3-11 貴重なカエル類の生息及び繁殖状況 (N-4 地区：春季)

ランク	現地調査に関する基準								
		N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2
a	繁殖を確認した。		○ 3			○ 3	○ 1	○ 1	
b	繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。			○ 3			○ 1		
c	生息を確認した。	○ 24	○ 11	○ 11	○ 2	○ 5	○ 1	○ 4	

注)

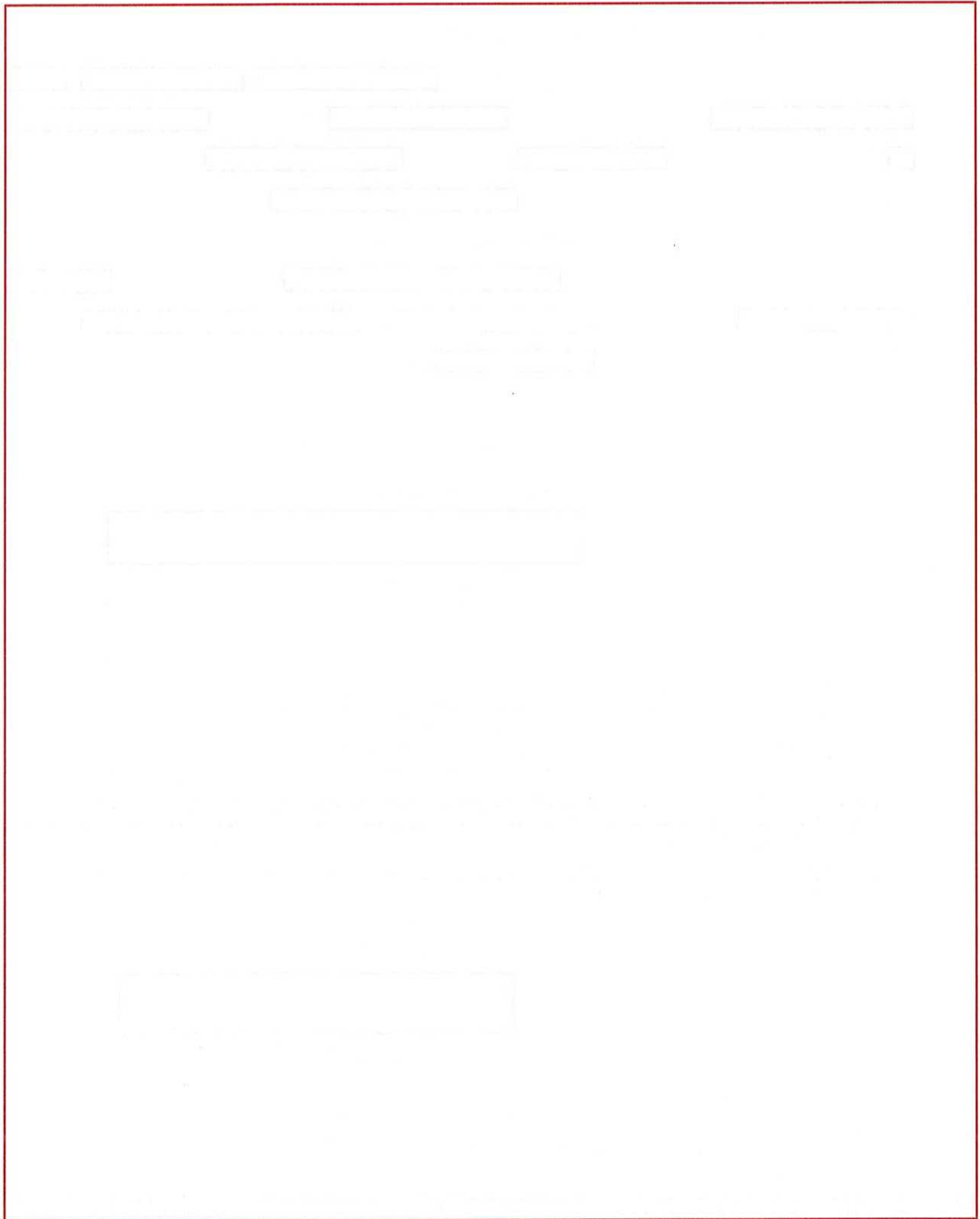
- ・表中数値は、各観察コードに該当する調査確認の件数を表す。(例) 複数個体から成る繁殖集団は 1 と集計)
- ・「繁殖を確認」は、産卵 (産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵 (卵塊含む)、幼生、1cm 前後の小型の幼体の確認と定義した。
- ・「繁殖可能性がある」は、2cm 前後及び比較的小型で移動性が低いと考えられる幼体を確認した場合と定義した (なお、これより大型で移動性が高いと考えられる幼体の確認は除外した)。
- ・「生息を確認」は、これ以外の確認 (成体の移動個体等) と定義した。

表 6.3.3-12 貴重なカエル類の生息及び繁殖状況 (N-4 地区：冬季)

ランク	現地調査に関する基準						
		N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2	N-4.1	N-4.2
a	繁殖を確認した。			○ 22			
b	繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。	○ 2		○ 3		○ 2	○ 1
c	生息を確認した。	○ 3	○ 17	○ 7	○ 8	○ 3	○ 1

注)

- ・表中数値は、各観察コードに該当する調査確認の件数を表す。(例) 複数個体から成る繁殖集団は 1 と集計)
- ・「繁殖を確認」は、産卵 (産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵 (卵塊含む)、幼生、1cm 前後の小型の幼体の確認と定義した。
- ・「繁殖可能性がある」は、2cm 前後及び比較的小型で移動性が低いと考えられる幼体を確認した場合と定義した (なお、これより大型で移動性が高いと考えられる幼体の確認は除外した)。
- ・「生息を確認」は、これ以外の確認 (成体の移動個体等) と定義した。



写真：貴重なカエル類の繁殖状況（N-4 地区）

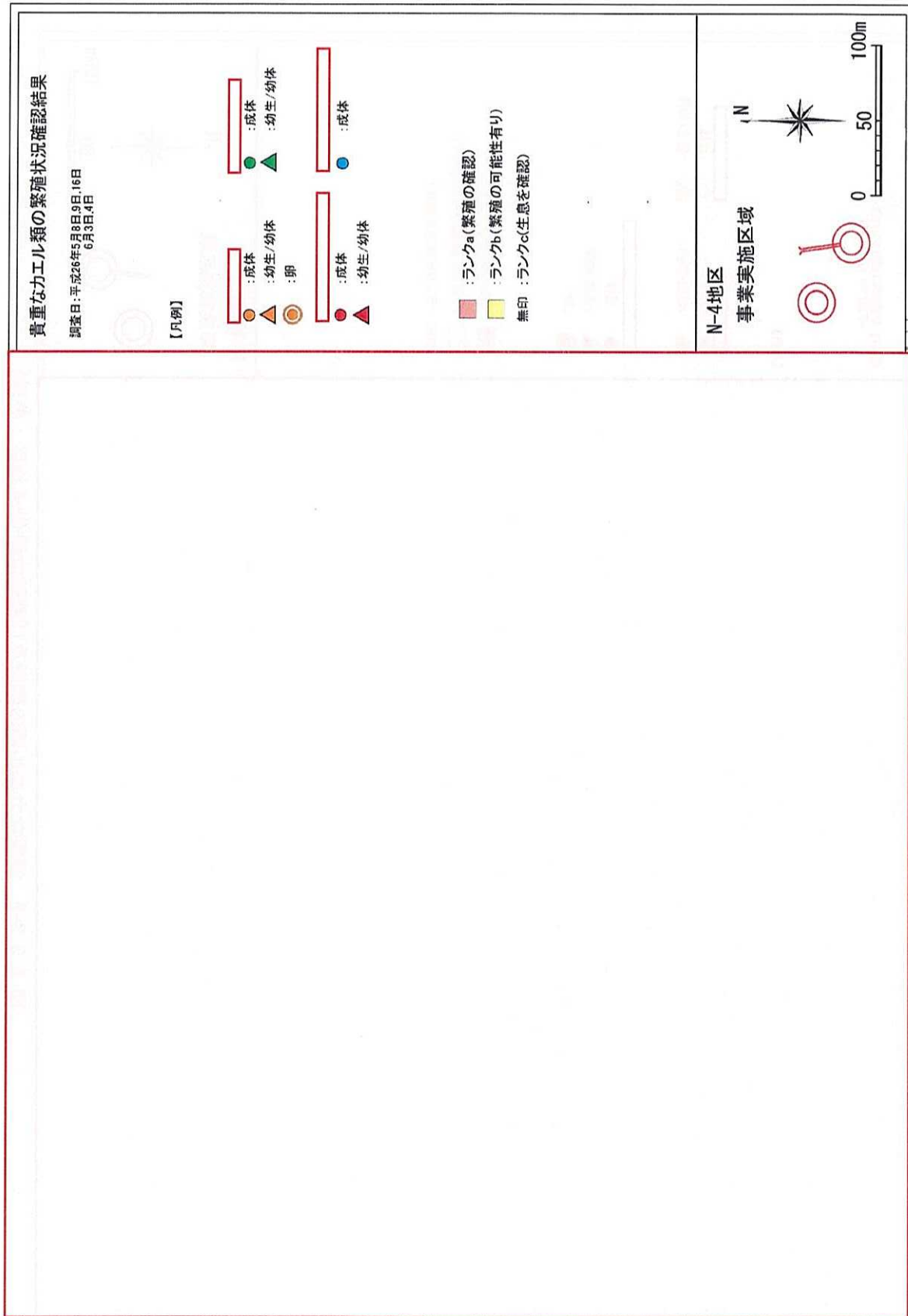


図 6.3.3-5 貴重なカエル類の確認及び繁殖位置(N-4地区：春季)

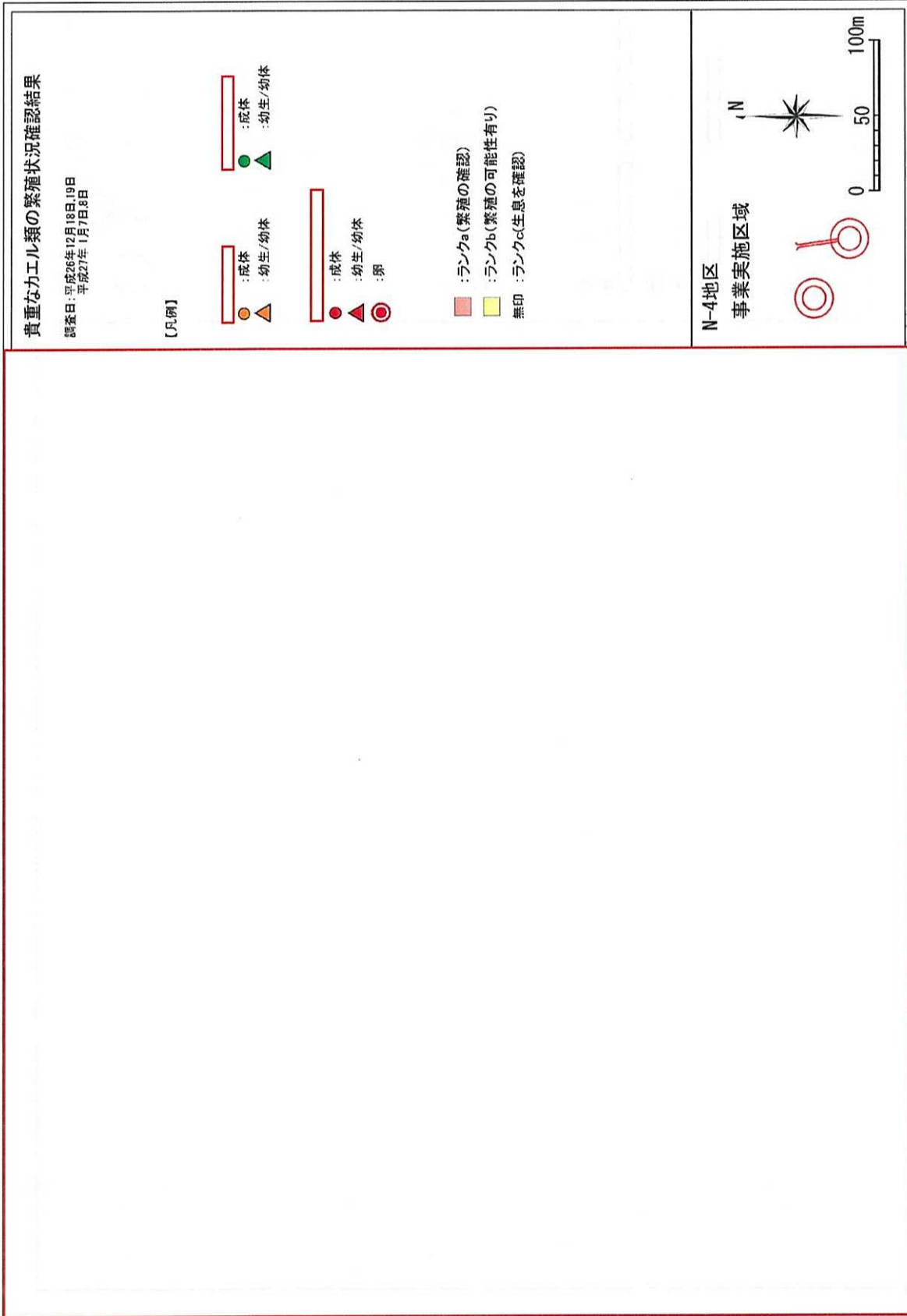


図 6.3.3-6 貴重なカエル類の確認及び繁殖位置(N-4地区：冬季)

6.3.4 生態系

1) ノグチゲラの人工採餌木の利用状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.3.4-1 に示した。

表 6.3.4-1 調査期間一覧(N-4 地区)

区分	調査年月日
存在時	平成 26 年 5 月 7 日
	平成 26 年 8 月 20 日、8 月 22 日
	平成 26 年 10 月 30 日
	平成 27 年 1 月 5、1 月 9 日

(2) 調査方法

過年度において、N-4 地区に設置したノグチゲラの人工採餌木(No. 1~3)及び平成 26 年 7 月に設置した人工採餌木(No. 4~12)を目視で観察し、ノグチゲラ等の採餌の利用状況について把握した。なお、人工採餌木(No. 4~12)については秋季調査から利用状況について確認を行っている。

(3) 調査地点

N-4 地区におけるノグチゲラの人工採餌木の設置箇所は 12 ヶ所であり、その設置位置を図 6.3.4-1 に示した。



図 6.3.4-1 人工採餌木の設置位置(N-4 地区)

(4) 調査結果

人工採餌木の利用状況を表 6.3.4-2 に示した。現地確認の結果、平成 26 年度は平成 23 年 2 月に設置した No. 1～3 の全てでノグチゲラの採餌跡が確認され、平成 26 年度冬季時点で、1 ヶ所あたり 17～23 ヶ所の採餌痕を確認した。一方、平成 26 年 7 月に設置した人工採餌木 No. 4～12 については、伐採木の設置後間もないことから、材が固く殆ど利用されていない状況であった。今後、No. 1～3 のように腐朽がすすむことで採餌やその他の生物に利用されるものと考えられる。

なお、人工採餌木においては、朽ち木内を住処とする [] が、No. 1～3 の [] ほか、樹皮下にすむ [] も確認されるなど、ノグチゲラ以外の貴重な動物の利用も確認されていた。

表 6.3.4-2 人工採餌木におけるノグチゲラの累積採餌跡数 (N-4 地区)

地区 (設置年月)	人工採餌木 番号	平成25年度				平成26年度				備考
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	
N-4 (平成23年2月)	No. 1									[] の掘りカスは 4 ヶ所で確認。 材が水分が多く、コケ・キノコが生えている。腐食している。
	No. 2									[] の掘りカスを 3 ヶ所で確認。 昆虫の抜けた穴を多数確認。 コケ・キノコなど腐食している。材も柔らかくなっている。
	No. 3									材は腐食が進み、一部崩れている。虫（カミキリ）が抜け出た穴を確認。[] の掘りあとを 5 ヶ所確認。
N-4 (平成26年7月)	No. 4									木は固い。
	No. 5									木は固い。
	No. 6									木は固い。
	No. 7									幹組のそばの別の木に掘りあと有り。木は堅い。
	No. 8									木は固い。
	No. 9									木は固い。古い採餌痕のある倒木は朽ちている。
	No. 10									木は固い。
	No. 11									木は固い。
	No. 12									木は固い。



人工採餌木の状況（平成 23 年 2 月に 3 基設置）

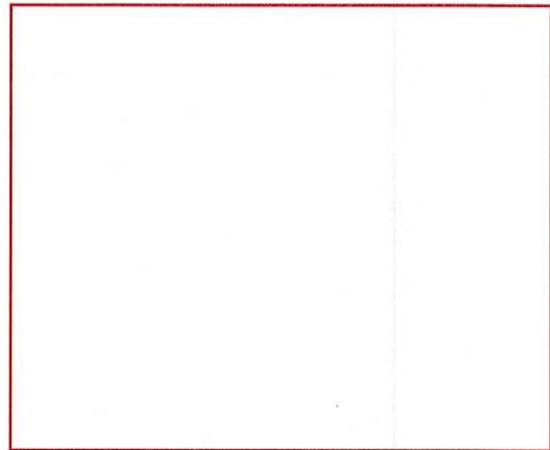
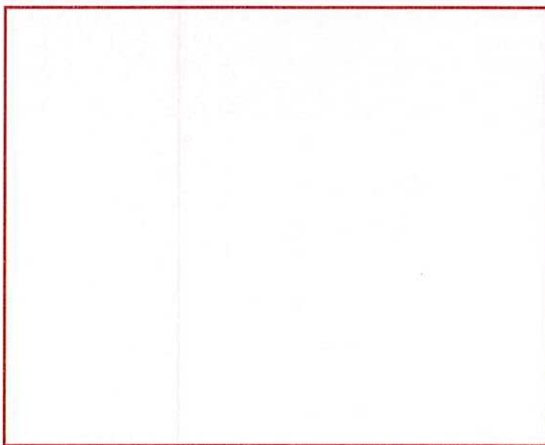
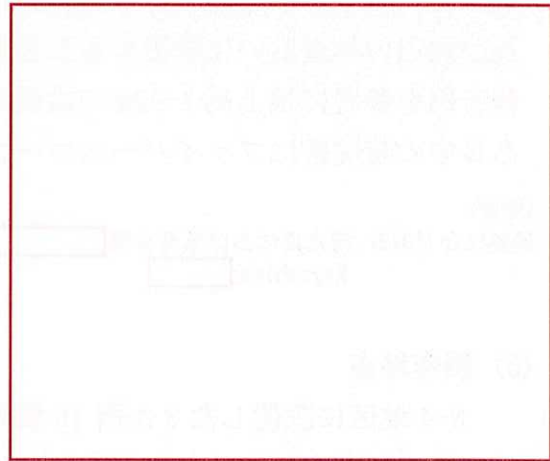


人工採餌木の状況（平成 26 年 7 月に 9 基を設置）



撮影月：平成 26 年 5 月

林内の設置状況



写真：人工採餌木の状況（N-4 地区）

2) コウモリ類のねぐら利用として巣箱(バットボックス)の利用状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.3.4-3 に示した。

表 6.3.4-3 調査期間一覧(N-4 地区)

区分	調査年月日
存在時	平成 26 年 3 月 29 日(設置) 平成 26 年 5 月 7~9 日 平成 26 年 8 月 19、22 日 平成 26 年 11 月 21 日 平成 27 年 1 月 7 日~9 日

(2) 調査方法

設置した巣箱は、工事区域から発生した伐採木を用い、評価書で示した形状(奥行 5cm、高さ 20~40cm)を参考として作成したものである。巣箱の設置箇所は、船越ほか(2013)が徳之島で行った調査での結果を参考に、評価書で示した設置箇所及び周辺の林道沿いに設置することとし、林内の樹木の幹に結束して固定した。報告例を参考に地上高 1~2m の設置高とした。その後、コウモリ類が休息している日中の時間帯にファイバースコープを用いて巣箱内を確認した。

(出典)

船越ほか(2013). 徳之島における希少種 の生態. Nature of Kagoshima,

(3) 調査地点

N-4 地区に設置した 3 か所 15 個の巣箱の位置を図 6.3.4-2 に示した。

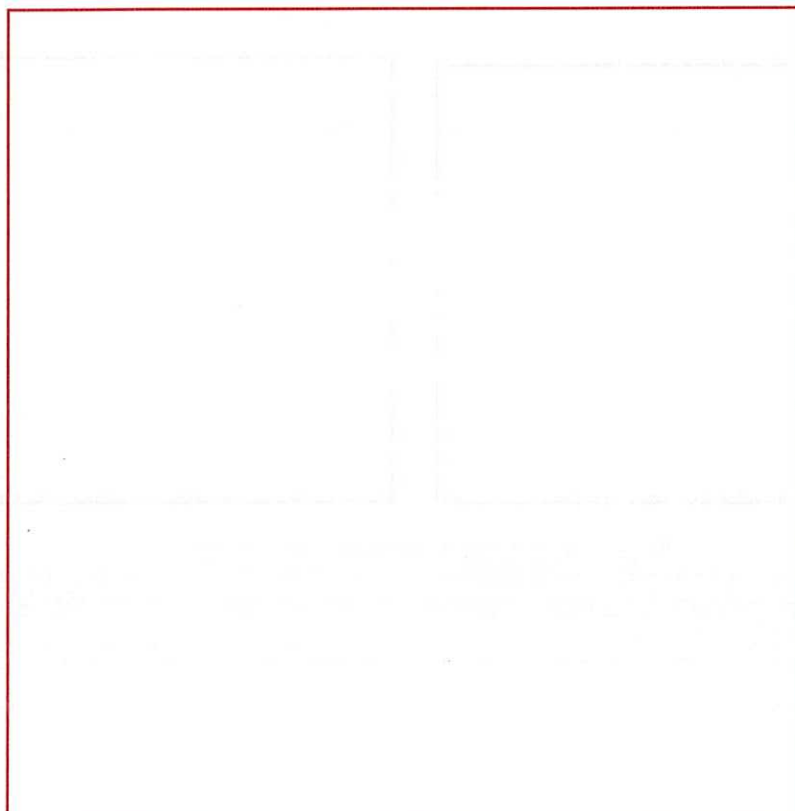


図 6.3.4-2 コウモリ類の巣箱設置位置 (N-4 地区)

(4) 調査結果

巣箱の利用状況を表 6.3.4-4 に示した。現地確認の結果、平成 26 年度はいずれの巣箱、調査季節においても、コウモリ類の []。

巣箱内では、このほか、オキナワヤモリ、ヤマナメクジ、オオゲジなどによる利用が確認された。

コウモリ類のうち、[] は船越ほか(2013)が徳之島で夏季から秋季にかけて行われた同種の調査報告によると、特にオスの成獣で頻繁にねぐらを替えること、出産・哺育を終えたメス成獣もねぐらを替える可能性が指摘されており、沖縄島においても同様に特定のねぐら(巣)に定住しない可能性が考えられる。[] など調査地域に生息する可能性があるこのほかの種は、生態的な研究例に乏しい状況である。

(出典)

船越ほか(2013). 徳之島における希少種 [] の生態. Nature of Kagoshima, []

表 6.3.4-4 コウモリ類の巣箱(バットボックス)の利用状況 (N-4 地区)

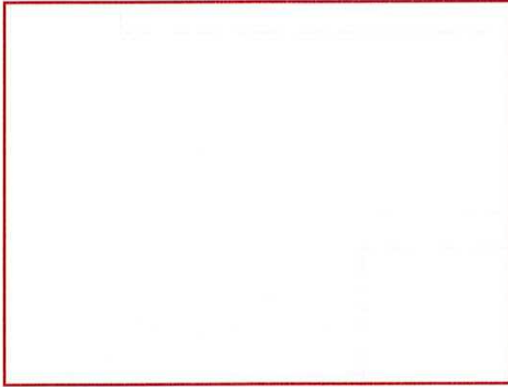
地区 (設置年月)	巣箱 番号	小型コウモリ類の確認結果(平成26年度)				備考
		春季	夏季	秋季	冬季	
N-4 (平成26年3 月設置)	1	①				夏季にアリの利用を確認した。秋季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		②				春季に種不明の糞を確認した。夏季にヤンバルヤマナメクジの利用を確認した。秋季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		③				秋季にヤマナメクジの利用を確認した。
		④				
		⑤				夏季にヤンバルヤマナメクジの利用を確認した。
	2	①				夏季にヤンバルヤマナメクジの利用を確認した。秋季に種不明の糞を確認した。冬季にオキナワアオガエル・ヤスデの利用を確認した。
		②				秋季にヤマナメクジの利用を確認した。冬季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		③				夏季にワラジムシ類の利用を確認した。冬季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		④				夏季にキマワリ類の利用を確認した。冬季にヤマナメクジの利用及び種不明の糞を確認した。
		⑤				春季にオオゲジの利用を確認した。冬季にヤスデ・ダンゴムシ類の利用を確認した。
	3	①				冬季にヤマナメクジの利用を確認した。
		②				春季にヤンバルマイマイの利用を確認した。秋季にヤマナメクジ・オキナワヤモリの利用を確認した。冬季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		③				夏季にアリの利用を確認した。冬季にオキナワヤモリの利用を確認した。
		④				夏季にアリの利用を確認した。秋季にヤマナメクジ・オキナワヤモリの利用を確認した。冬季にオキナワヤモリ・ヤンバルマイマイ・ヤマナメクジの利用を確認した。
		⑤				夏季にアリの利用を確認した。冬季にオキナワヤモリの利用を確認した。



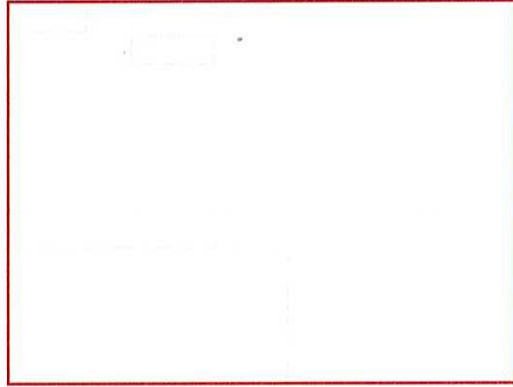
巣箱の形状



巣箱の断面



巣箱の設置状況



ファイバースコープによる確認

写真：コウモリ類の巣箱の状況（N-4 地区）

3) 注目種(20種)の生息・繁殖状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.3.4-5 に示した。

表 6.3.4-5 調査期間一覧(N-4 地区)

区分	調査年月日
存在時	平成 26 年 5 月 7 日～10 日、16 日、21 日、22 日、6 月 3 日 平成 26 年 7 月 2 日、3 日、8 月 12 日、13 日、19 日～22 日 平成 26 年 10 月 20 日、21 日、29～31 日、11 月 4 日～7 日、20 日、21 日 平成 27 年 1 月 7 日～9 日、28 日～30 日、2 月 23 日～27 日

(2) 調査方法

本事業の環境影響評価図書で定めた注目種について、その生息・繁殖状況を記録する。具体的には、表 6.3.4-6 に示す動物について、生息・繁殖状況の記録を行った

表 6.3.4-6 調査対象及び調査手法

No.	注目種	調査方法
1	ノグチゲラ	ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
2	ヤンバルクイナ	コールバック調査及びライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
3	ホントウアカヒゲ	ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
4	リュウキュウヤマガメ	ライン踏査を行い、確認場所を記録し、幼体と成体に分けて記録した。
5	ヤンバルテナガコガネ	樹洞を探索し、生息状況を記録する。なお、樹洞の探索時において生息痕(幼虫の糞)等を確認した場合は、現状を保全した上で確認状況を記録する。
6	オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル	繁殖期に沢を日中及び夜間に踏査し、生息や繁殖状況、繁殖場の位置を記録した。
7	オキナワミナミヤンマ	成虫は、踏査により確認地点を記録、幼虫は沢においてタモ網採集により確認した。
8	アオバラヨシノボリ、キバラヨシノボリ	調査範囲内の河川において、確認位置や生息・繁殖状況(雌雄の成魚数、未成魚、浮遊仔魚の個体数)を記録した。
9	ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ	日中の樹洞及び河岸の岩の隙間、多量の葉が付いた折れ枝等の日中の探索を行う。また、生息が予測される場所において夜間踏査を行い、バットディテクターにより確認した。
10	オキナワトゲネズミ	ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡、獣糞内の毛等)を記録した。
11	リュウキュウイノシシ、ハブ、ヒメハブ	ライン踏査を行い、目撃確認を記録する。リュウキュウイノシシについては、生息跡(糞、足跡、ヌタ場等)も記録した。なお、リュウキュウイノシシは、幼獣については、大きさや色彩から判断し、区別して記録した。また、ハブについては、目視で約 100cm 以下の個体を幼体とした(ハブは全長約 40cm で孵化し、最小成熟雌は約 105cm)。ヒメハブについては、目視で約 40cm 以下の個体を幼体とした(ヒメハブは頭胴長約 14cm で孵化し、最小成熟雌は 43.6cm)。
12	マンダース、ノネコ	ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡、糞等)を記録したほか、トラップ調査や自動撮影の結果も反映した。なお、トラップ調査で用いた罠は、非致死性のカゴ罠である。

(3) 調査結果

a) ノグチゲラ

N-4 地区におけるノグチゲラの [] 状況を表 6.3.4-7、 [] 位置を図 6.3.4-3～図 6.3.4-4 に示した。

ノグチゲラは、N-4 地区では春季 []、夏季 []、秋季 []、冬季 [] を確認した。また、採餌痕は、春季～冬季の調査において []。 [] からは、調査範囲の [] [] であった。

N-4 地区では、平成 26 年度春季の繁殖時期において、 [] と [] の [] でノグチゲラの営巣が []。このほか、当年利用した巣跡を []。これらを合わせて、N-4 地区では平成 26 年度は [] が []。なお、本種は繁殖期になわばりを形成し、その行動圏は、金城ら(1989)の調査では 4～7ha^{注1)}、環境庁(1991)では約 22ha の範囲であることが知られているが^{注2)}、 [] や [] の営巣箇所は、 []、 [] であったことから、 [] 可能性もあると考えられた。

過年度の巣跡については、 []。なお、平成 23～25 年度の調査で [] であり、これらに [] を含めて、調査開始から [] の巣跡が N-4 地区で []。

注 1) 金城道男、中須賀常雄、馬場繁幸、大西信吾(1989). ノグチゲラに関する研究(II)-繁殖期の行動圏について-. 日林九支研論集. 42:pp. 171-172

注 2) 環境庁(1991). 日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-. 脊椎動物編:p. 146

注 3) 平成 26 年度調査では、過年度の [] は平成 25 年度以前に [] しており除外した。

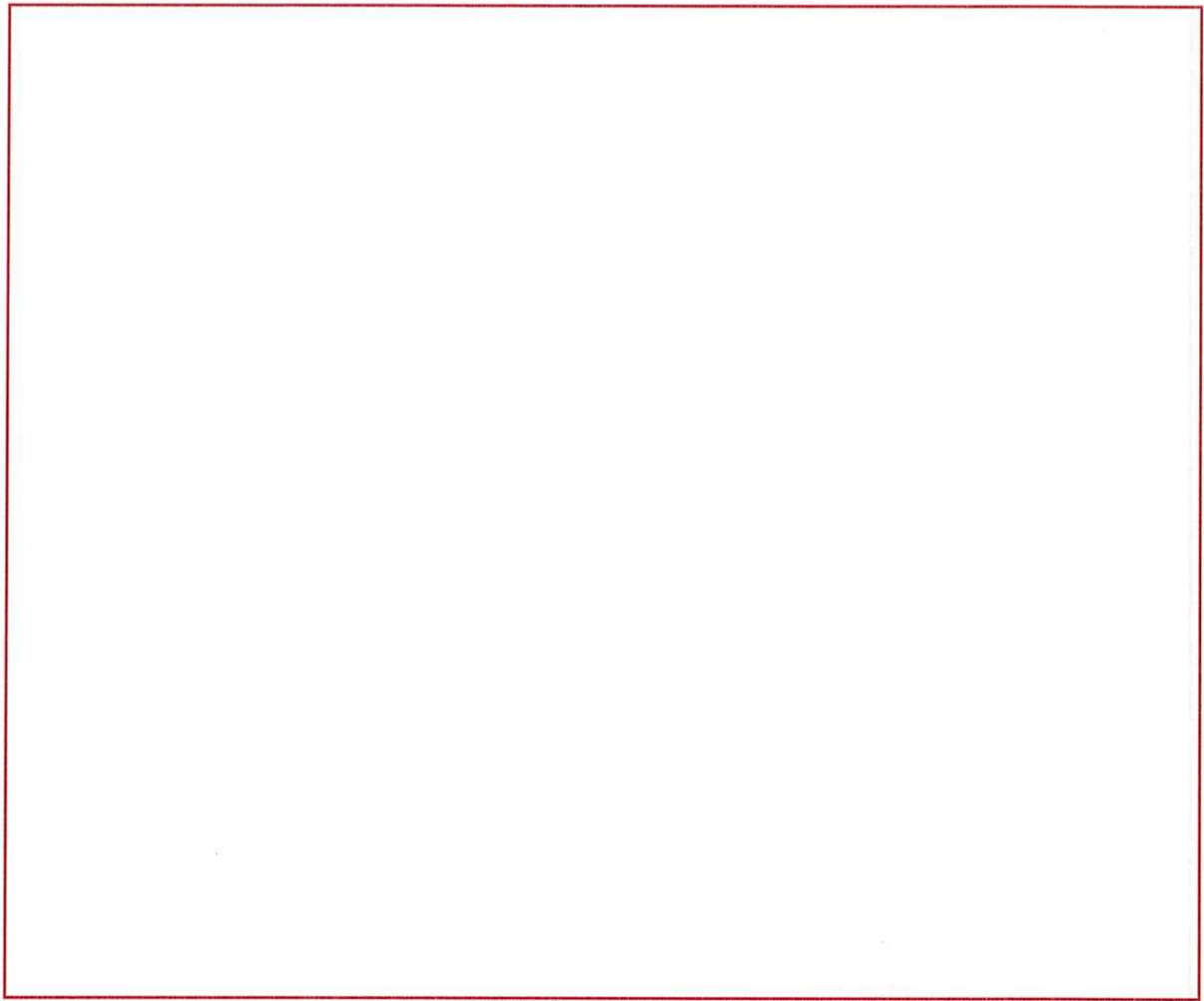


表 6.3.4-7 ノグチゲラの状況(N-4 地区)

季節	
春季	
夏季	
秋季	
冬季	
計	

注) 巢跡(過年度)は、は平成25年度以前にしており除外した。

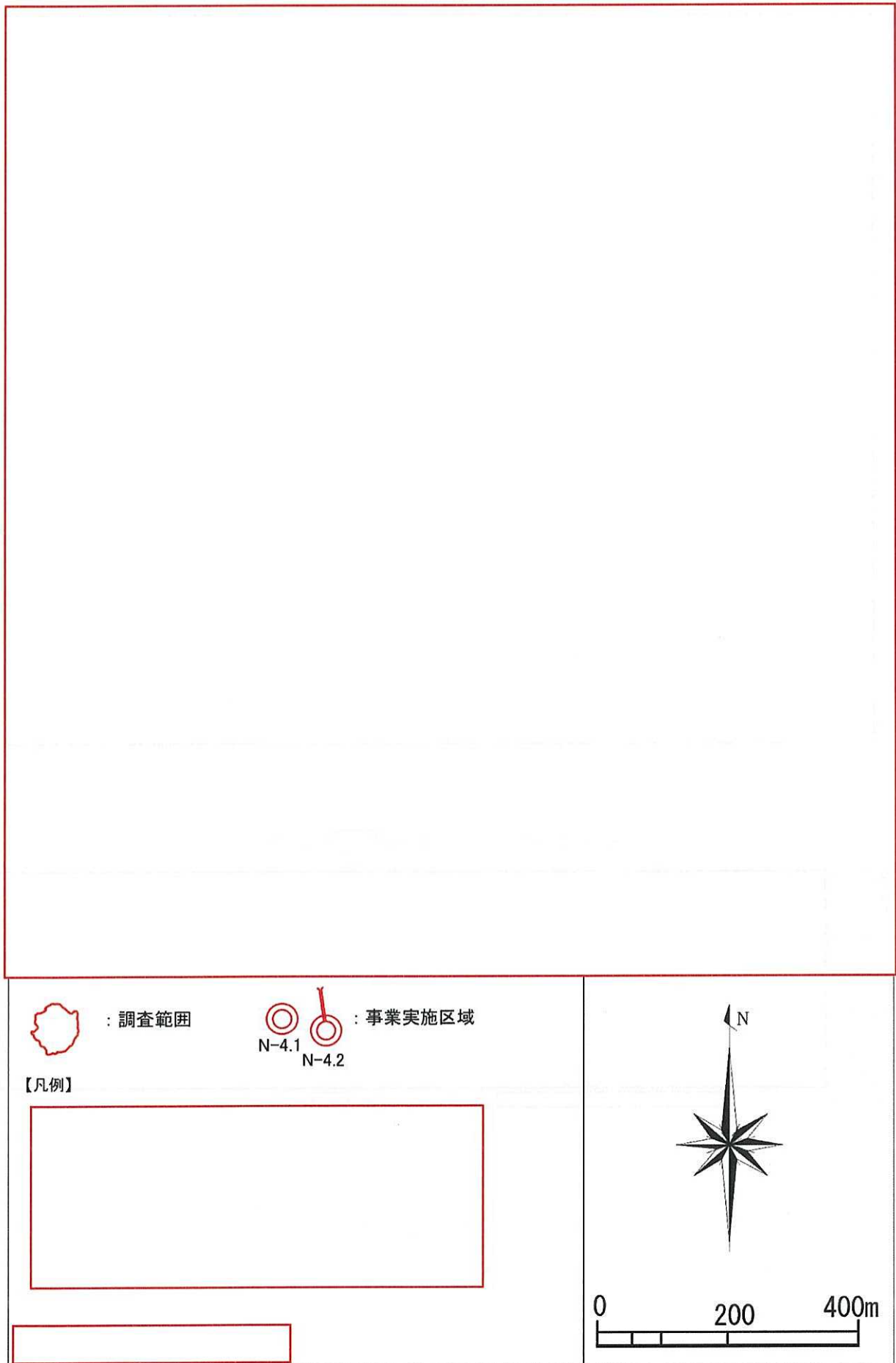


図 6.3.4-3 ノグチゲラの 位置(N-4 地区)

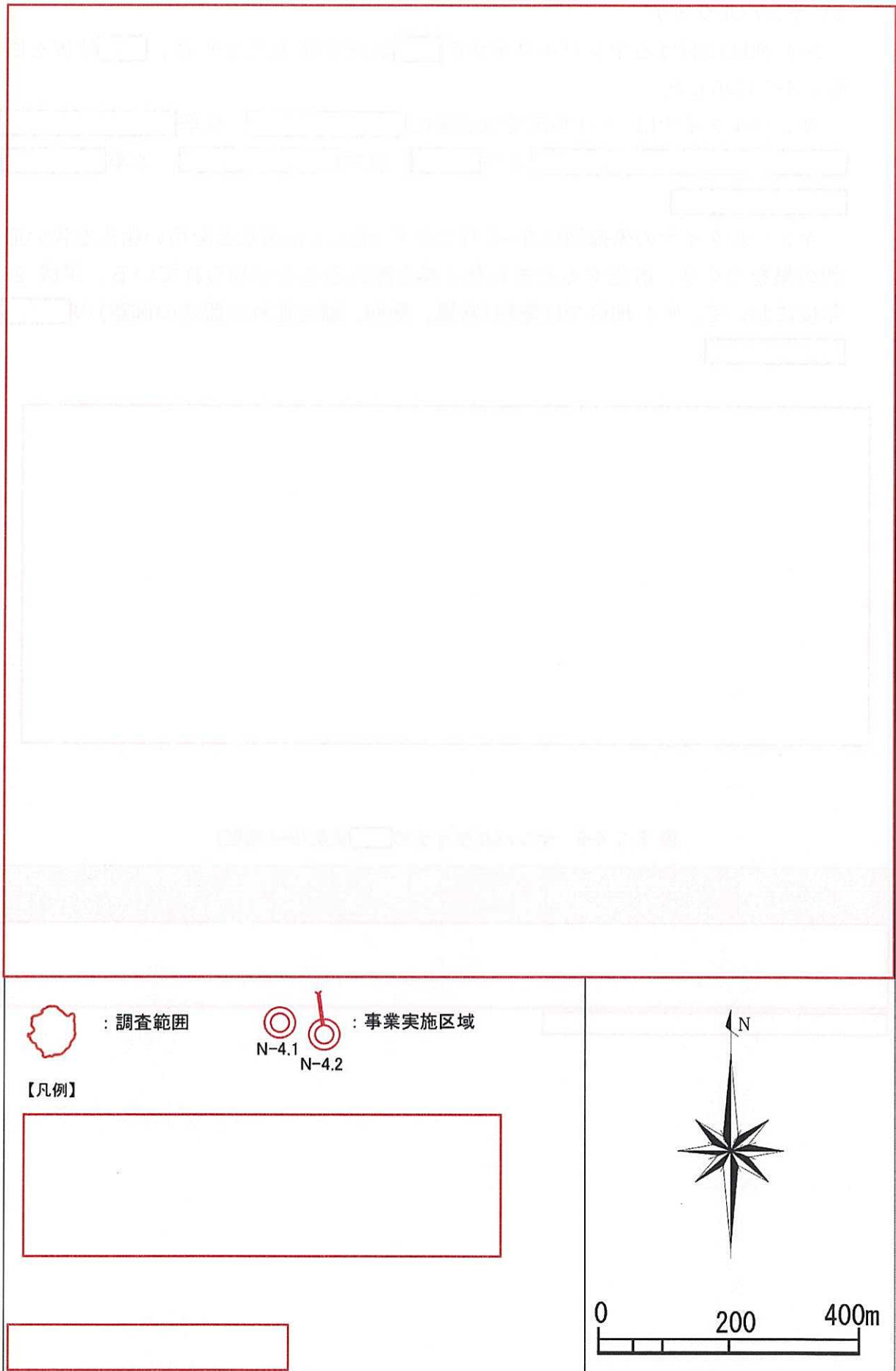


図 6.3.4-4 繁殖期(春季)のノグチゲラの位置(N-4地区)

b) ヤンバルクイナ

N-4 地区におけるヤンバルクイナの 状況を表 6.3.4-8 に、 位置を図 6.3.4-5 に示した。

ヤンバルクイナは、N-4 地区では春季に 、夏季
 及び 、秋季 、冬季
。

ヤンバルクイナの繁殖期は5～7月であり、地上で枯葉などを用い粗末な浅い皿状の巣をつくり、孵化するとまもなく巣を離れることが知られている。平成 26 年度において、N-4 地区では繁殖(営巣、抱卵、雛を連れた親鳥の確認)の
。

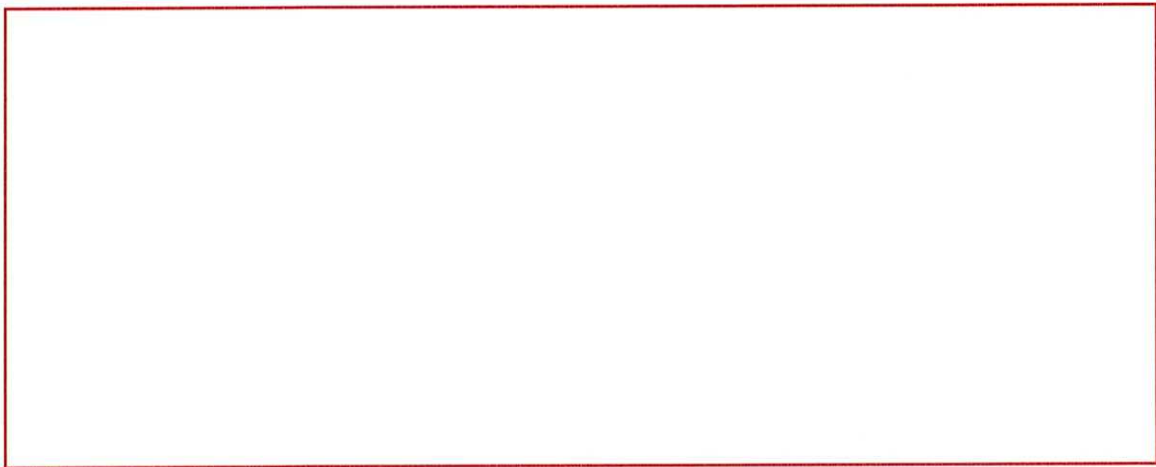


表 6.3.4-8 ヤンバルクイナの 状況(N-4 地区)

区分	春季 (4-6月)	夏季 (7,8月)	秋季 (10,11月)	冬季 (12,1月)
<input type="text"/>				



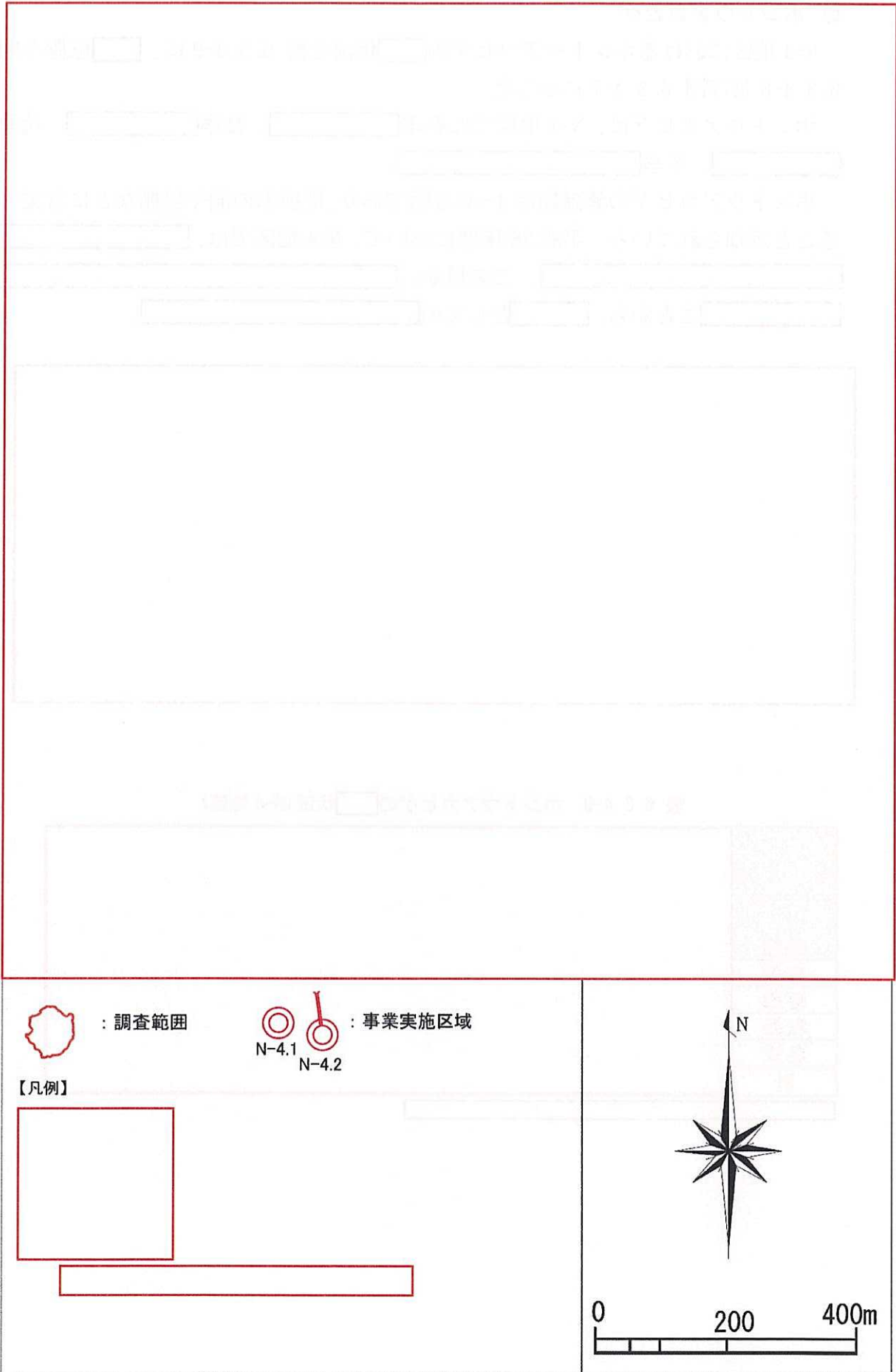


図 6.3.4-5 ヤンバルクイナの 位置 (N-4 地区)

c) ホントウアカヒゲ

N-4 地区におけるホントウアカヒゲの [] 状況を表 6.3.4-9 に、 [] 位置を図 6.3.4-6 及び図 6.3.4-7 に示した。

ホントウアカヒゲは、N-4 地区では春季 []、夏季 []、秋季 []、冬季 []。

ホントウアカヒゲの繁殖期は 4～6 月頃であり、枯損木の洞や岩棚などに営巣することが知られている。平成 26 年度において、N-4 地区では、 [] []。このほか、 [] [] ことから、 [] としての []。

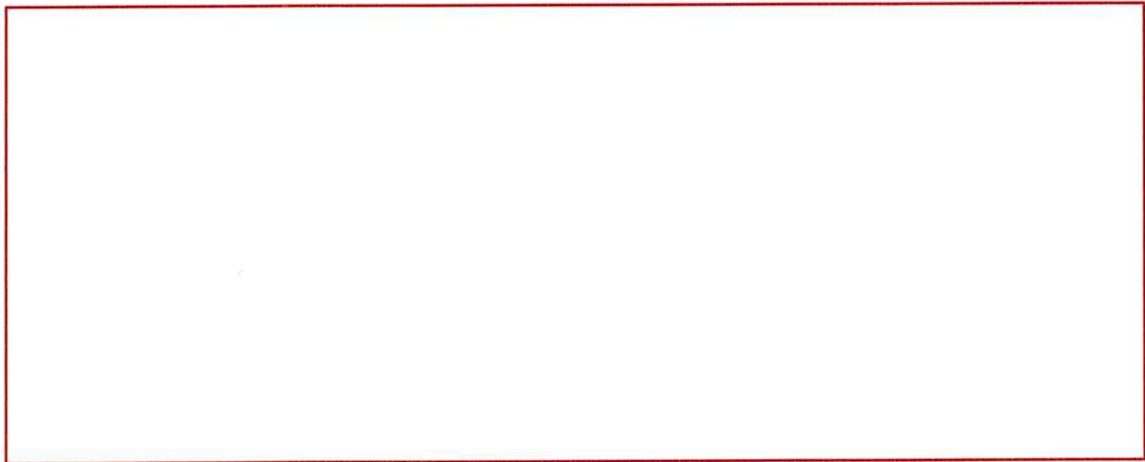


表 6.3.4-9 ホントウアカヒゲの [] 状況 (N-4 地区)

季節	
春季	
夏季	
秋季	
冬季	
計	

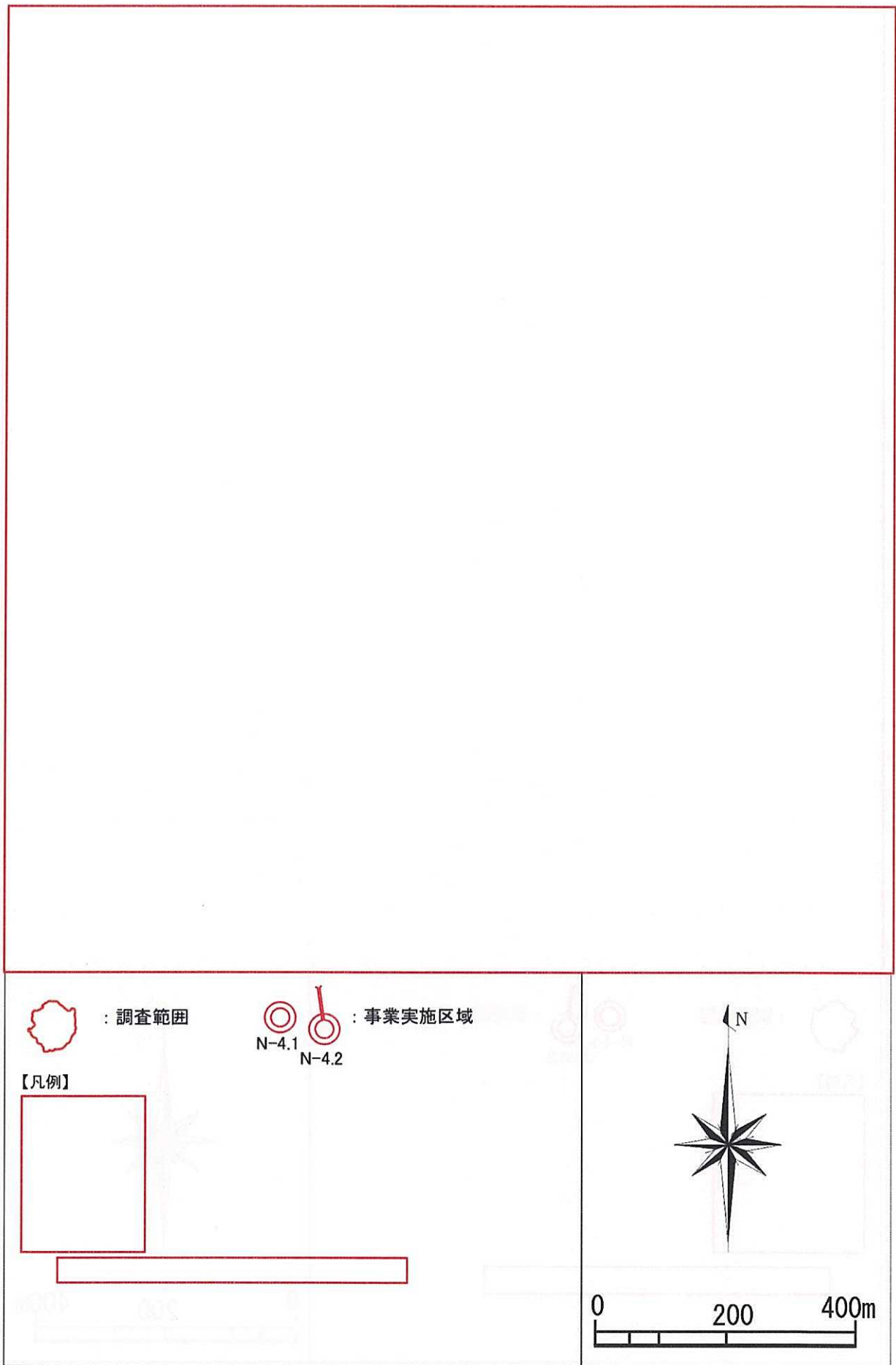


図 6.3.4-6 ホントウアカヒゲの位置(N-4 地区)

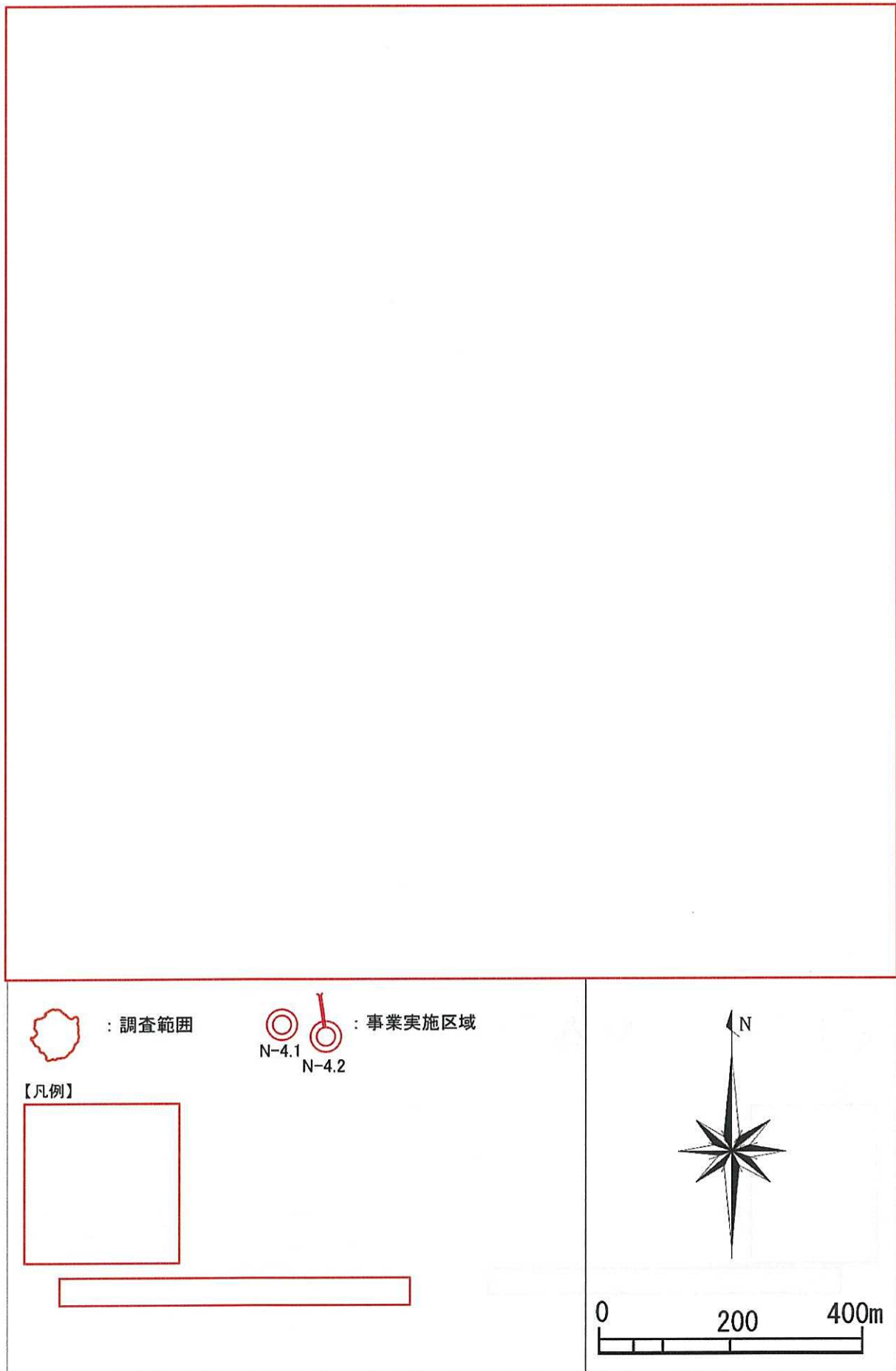


図 6.3.4-7 繁殖期(春季)のホントウアカヒゲの位置(N-4地区)

d) ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ

小型コウモリ類の [] 状況を表 6.3.4-10 に、[] 位置を図 6.3.4-8 に示した。

N-4 地区の調査においては、ヤンバルホオヒゲコウモリとリュウキュウテングコウモリは []。なお、[] での秋季の夜間踏査において、[] 小型コウモリ類 []。その後、バットディテクターで把握を行った [] ことから [] []

なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において両種は確認されていない。

表 6.3.4-10 小型コウモリ類の [] 状況 (N-4 地区)

区分	春季 (4-6月)	夏季 (7, 8月)	秋季 (10, 11月)	冬季 (12, 1月)
[]				

e) オキナワトゲネズミ

N-4 地区の調査において、オキナワトゲネズミは []。なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において本種は確認されていない。

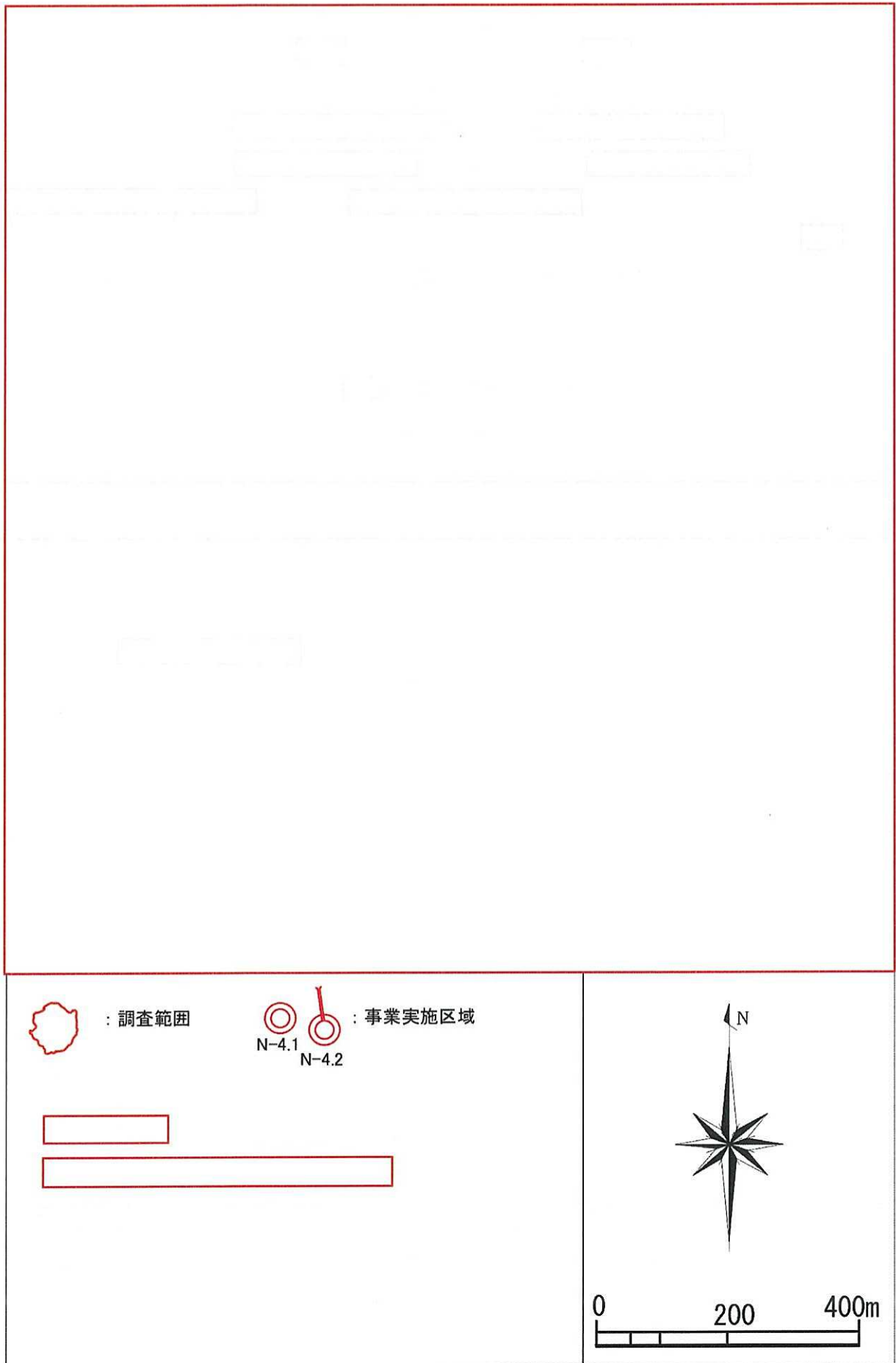


図 6.3.4-8 小型コウモリ類の位置(N-4 地区)

f) リュウキュウイノシシ

N-4 地区におけるリュウキュウイノシシの確認状況を表 6.3.4-11、確認位置を図 6.3.4-9 に示した。

リュウキュウイノシシは、N-4 地区の沢沿いで多数の掘り返し跡^{注)}を確認しており、N-4 地区の調査範囲の全域で生息していた。なお、平成 26 年度の調査では、幼獣を確認したことから、繁殖を示唆する確認が得られた。

注) 草の根やミミズ等を採餌するために林床を掘り返した跡である。



自動撮影機で撮影された親子(N-4 地区:春)



足跡 (N-4 地区:春)

表 6.3.4-11 リュウキュウイノシシの確認状況(N-4 地区)

区分	確認数・地点数(フィールドサイン)			
	春季 (4-6月)	夏季 (7,8月)	秋季 (10,11月)	冬季 (12,1月)
成獣(個体の確認)	6	2	5	3
幼獣(個体の確認)	6	1	0	0
フィールドサイン(足跡)	0	1	2	2
(採餌痕)	2	0	0	0
(糞)	1	1	0	3
(掘り返し)	20	15	9	17
計	35	20	16	25

※成獣、幼獣の確認数は自動撮影機で確認した数も含む。

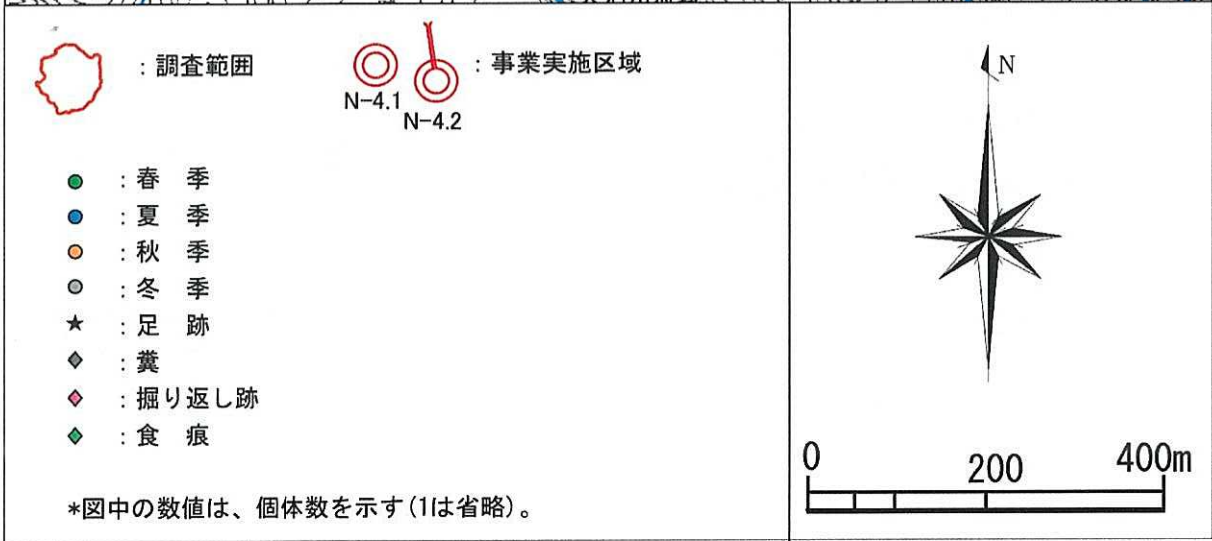
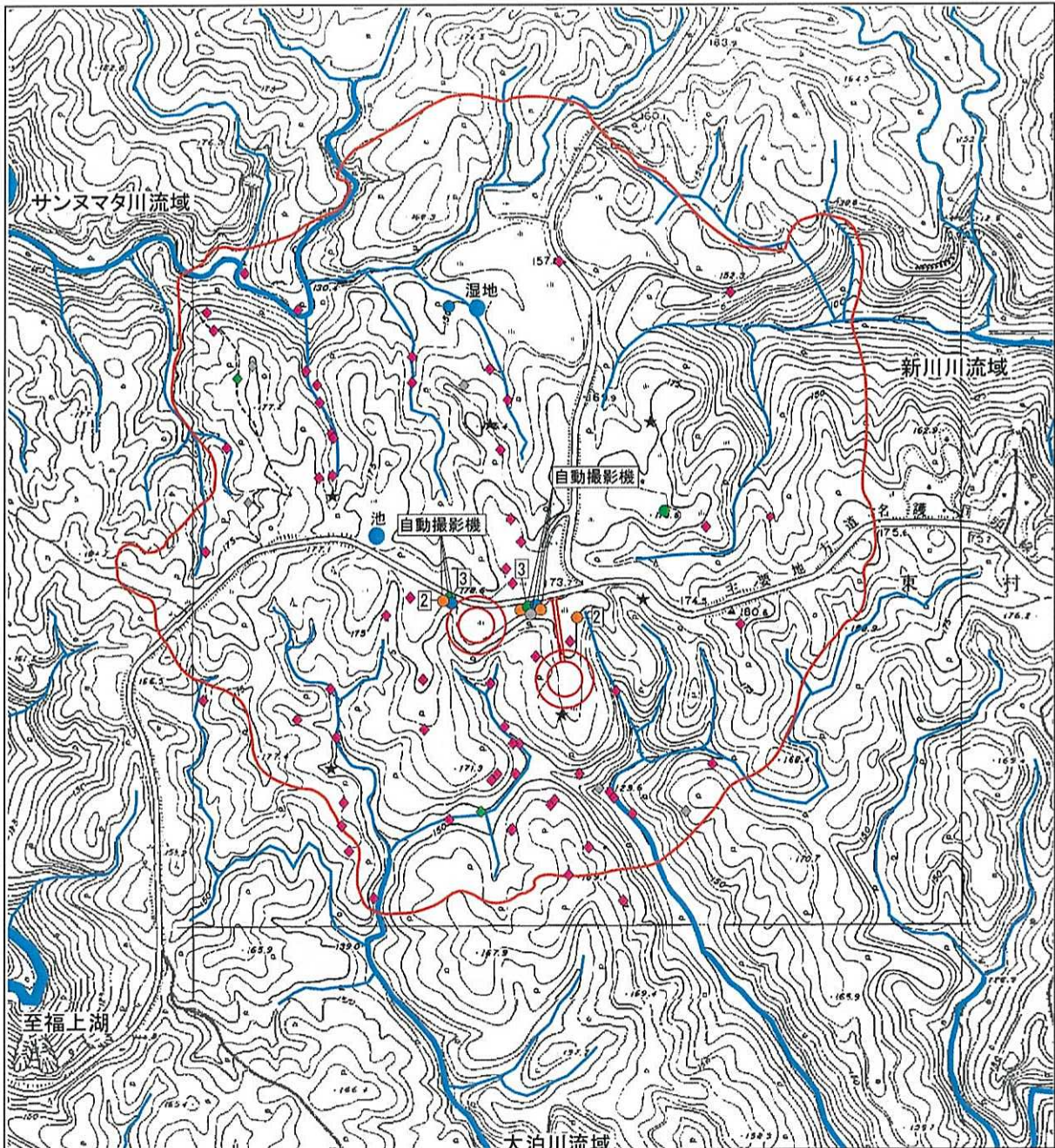


図 6.3.4-9 リュウキュウイノシシの確認位置(N-4 地区)

g) リュウキュウヤマガメ

N-4 地区におけるリュウキュウヤマガメの 状況を表 6.3.4-12、 位置を図 6.3.4-10 に示した。

リュウキュウヤマガメは、N-4 地区の調査範囲に 、沢筋を中心に春季 、夏季 、秋季 、冬季 。

リュウキュウヤマガメの産卵時期は、4月から始まり数ヶ月続き、7月頃から孵化した個体が確認されることが知られている。平成 26 年度においては、N-4 地区で幼体等の繁殖を示す 。

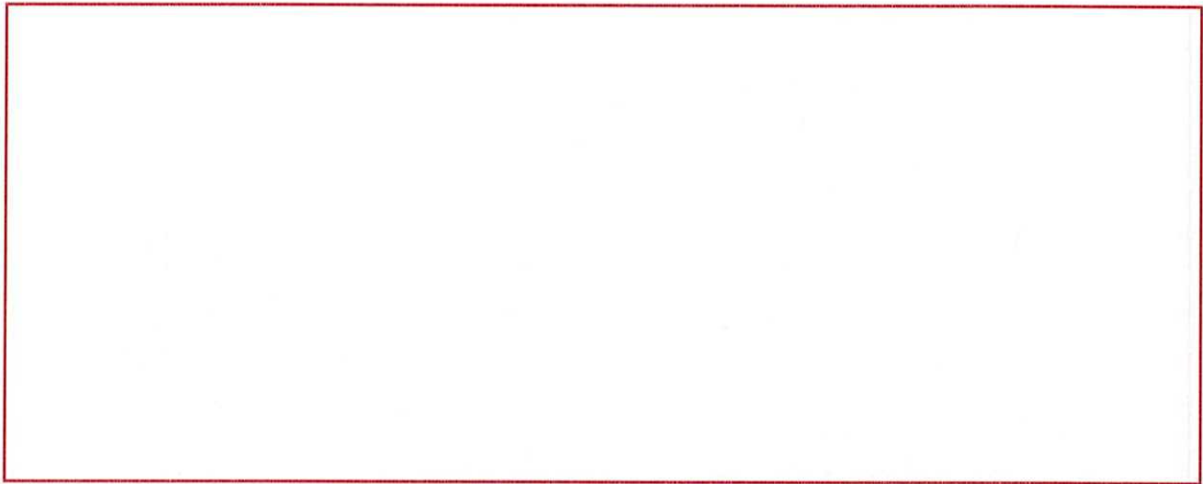


表 6.3.4-12 リュウキュウヤマガメの 状況一覧 (N-4 地区)

区分	確認個体数			
	春季	夏季	秋季	冬季
<input type="text"/>				

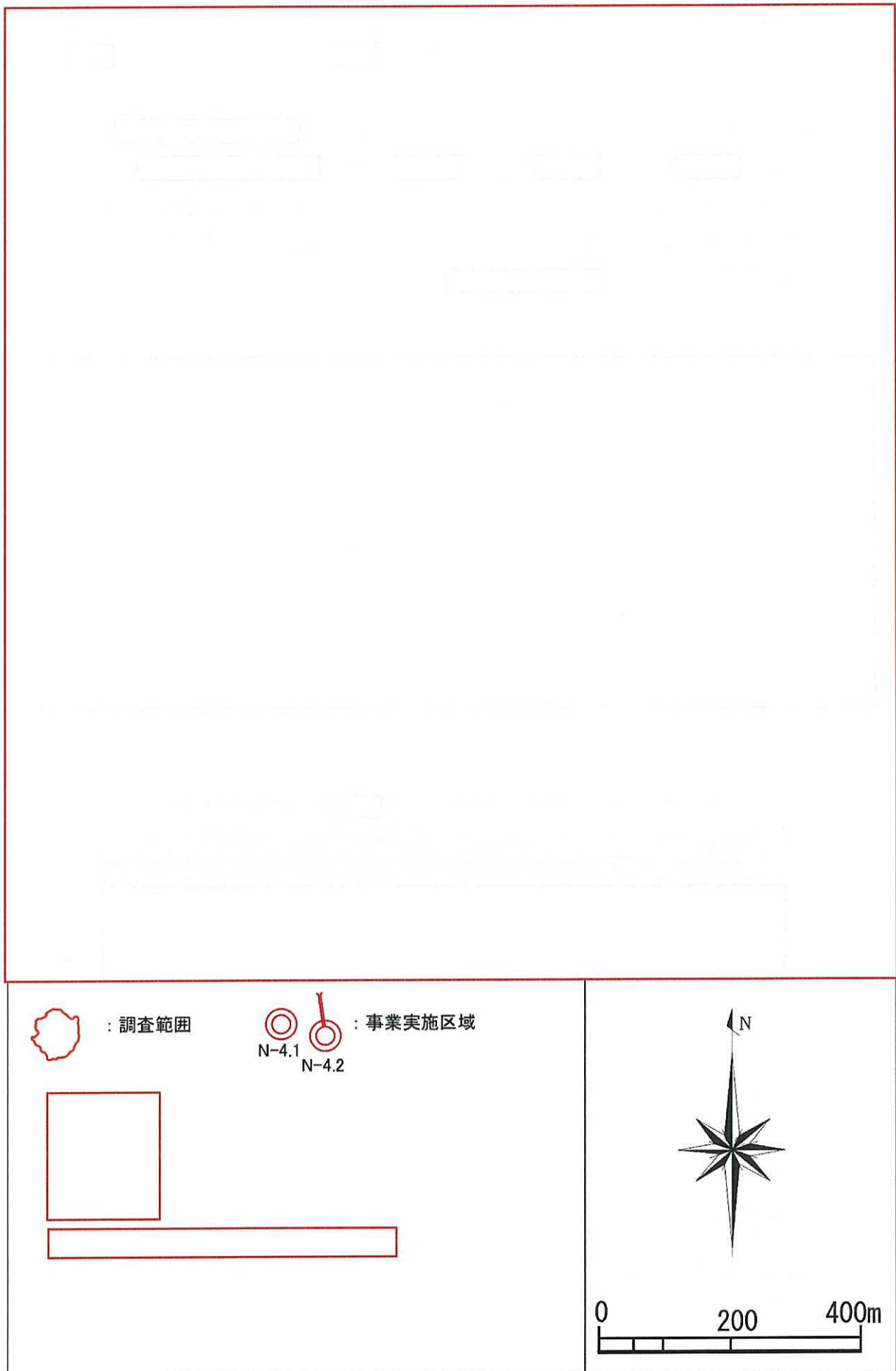


図 6.3.4-10 リュウキュウヤマガメの 位置(N-4 地区)